



平成30年度 水稻生育診断情報 No.5

(平成30年8月23日)

(情報作成) 滋賀県農業技術振興センター
近江八幡市安土町大中 516 (TEL:0748-46-4391)

(今年度最終情報です)

現在の生育状況

- ◎7月以降気温の高い日が続き、各品種とも平年より出穂期は早く、登熟の進み具合も早い傾向にあり、成熟期は平年より数日早くなる見込み。
- ◎県内ほ場の5月上旬移植「みずかがみ」では、成熟期を迎えている。

管理のポイント

- ◎葉色に惑わされず、穂(籾)色をしっかりと確認し、籾黄化率85~90%の時期に収穫する！(刈り遅れによる品質低下に注意！！)
- ◎根や葉の活力維持のため、収穫5日前まで落水しない！
- ◎中生・晩生品種では今後も十分な水が必要なので、こまめな水管理を行う！

※農業技術振興センターのホームページ「みずかがみ」コーナー、facebookもご参照ください。また、台風が接近中なので、気象災害等発生時の技術対策(<http://www.pref.shiga.lg.jp/g/nogyo/kikaku/240619/taifu.html>)もあわせてご参照ください。

1 気象の経過と予報

(1) 気象の経過 (彦根気象台観測、平年は過去10年間の平均)

要素		最高気温	最低気温	日照時間	降水量
7月	全般	かなり高い	高い	かなり多い	かなり多い
8月	上旬	かなり高い	平年並	かなり多い	かなり少ない
	中旬	かなり高い	やや低い	やや多い	かなり少ない

(2) 近畿地方1か月予報【大阪管区気象台8月16日発表】

- 近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わる。近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。
- 向こう1か月の平均気温は、高い確率70%。
- 降水量は、近畿日本海側で多い確率40%、近畿太平洋側で平年並または多い確率ともに40%。
- 週別の気温は、1週目は高い確率50%。2週目は高い確率60%。3~4週目は高い確率50%。

2 生育状況

【農業技術振興センター 水稻作況調査(8月10日時点)による。表1および後掲グラフ参照。】

早生品種:「みずかがみ」、「コシヒカリ」 中生品種:「秋の詩」

- 「みずかがみ」の出穂期は7月23日、「コシヒカリ」の出穂期は7月26日で、幼穂形成期から出穂期までの期間が過去5年平均より短かった。

- 「秋の詩」の出穂期は8月12日で過去5年平均より3日遅かった。

※還元障害による影響を受けたため、数値を参考にされる場合はご注意ください。



「みずかがみ」

「コシヒカリ」

「秋の詩」

(撮影日：8月20日)

表1 平成30年(2018年) 水稲作況調査 生育調査結果

滋賀県農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

基準日 月/日	品種名	草丈(cm)				茎数(本/m ²)				葉色(SPAD値)				主稈葉数(枚)			
		本年	H25-29	比	前年	本年	H25-29	比	前年	本年	H25-29	比	前年	本年	H25-29	較差	前年
7/30	みずかがみ	—	—	—	—	—	—	—	—	36.8	36.3	101	35.5	13.8	13.2	0.6	13.4
	コシヒカリ	—	—	—	—	—	—	—	—	39.3	37.3	105	40.2	13.5	13.1	0.4	13.0
	秋の詩	93.3	95.5	98	97.4	573	540	106	505	39.1	36.8	106	37.8	13.5	13.1	0.4	13.3
8/10	秋の詩	109.4	110.1	99	111.3	495	496	100	436	37.2	36.2	103	36.6	14.0	13.7	0.3	13.6

移植日は5月10日(播種日:4月20日)。「みずかがみ」、「コシヒカリ」は栽植密度18.5株/m²、植付本数3本/株。「秋の詩」は栽植密度:22.2株/m²、植付本数:4本/株。

表2 水稲作況調査 生育ステージ

滋賀県農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

品種	生育ステージ	本年	H25-29	較差	前年
みずかがみ	幼穂形成期	7月1日	6月29日	2日遅い	6月29日
	出穂期	7月23日	7月22日	1日遅い	7月23日
	成熟期	未	8月24日	—	8月25日
コシヒカリ	幼穂形成期	7月3日	7月3日	同日	7月2日
	出穂期	7月26日	7月27日	1日早い	7月25日
	成熟期	未	8月31日	—	8月30日
秋の詩	幼穂形成期	7月16日	7月15日	1日遅い	7月11日
	出穂期	8月12日	8月9日	3日遅い	8月6日
	成熟期	未	9月18日	—	9月15日

移植日は5月10日(播種日:4月20日)。「みずかがみ」、「コシヒカリ」は栽植密度18.5株/m²、植付本数3本/株。「秋の詩」は栽植密度:22.2株/m²、植付本数:4本/株。

3 今後の管理

(1) 適期収穫

■ほ場内で出穂のばらつきが大きいところは、葉の色が黄化していなくても、籾は先熟している場合があるので、収穫時期が近づいたらほ場に入り、穂(籾)色をしっかりと確認して収穫適期を見極め、刈り遅れないよう注意する。収穫適期は、穂の先端から3~4本目の枝梗につく籾が全て黄化した頃で、籾黄化率85~90%の時期である(目安は、籾黄化率50%程度で収穫7日前)。

■出穂後の気温が高い年は登熟日数が短くなる傾向にあるので、早生品種(「コシヒカリ」等)だけでなく、中生品種(「秋の詩」等)でも、出穂後30日を過ぎたら収穫できるよう準備を整えておく。

★過去5年の登熟日数（作況試験データより）

年次 \ 品種名	みずかがみ	コシヒカリ	秋の詩
平成25年～29年	32～34日	32～37日	37～42日

【適期収穫のポイント】 ★葉色に惑わされず、ほ場に入って穂をしっかり確認する。

- 収穫適期の目安
- ①上から3～4本目の枝梗につく籾が全て黄化した頃
 - ②籾黄化率85～90%

★収穫7日前の目安：籾黄化率50%程度・・・収穫適期判定板を活用

適期収穫で胴割粒を減らそう！
収穫適期判定板

使い方

- ほ場全体を見て、平均的な場所に入ります。
- 穂に判定板(裏面)の色がついている部分をあてます。
- 黄色く熟した籾(モミ)の割合を見て収穫時期を判断します。(判定板の色は熟した籾の色目安です。)

特に8月～9月の気温が高くなった場合は要注意

年次	品種名	コシヒカリ	日本晴	秋の詩
平成25年～29年		37日 (34～40日)	41日 (34～49日)	-
平成13年～22年 (最近10年間)		33日 (30～37日)	38日 (32～40日)	39日 (30～44日)

近江米振興協会



(2) 適正な水管理

- 出穂期前後は、水稻の一生の中で最も多くの水を必要とする時期であり、水が不足すると稲が十分に光合成できず、白未熟粒の発生や籾の充実不足が助長されるため、出穂前後各3週間は常時湛水管理を行う(図1)。
- 落水時期の目安は収穫の5日前であるが、収穫作業に支障がない限り出来るだけ遅らせ、根や葉の活力を収穫直前まで維持させる(図2)。

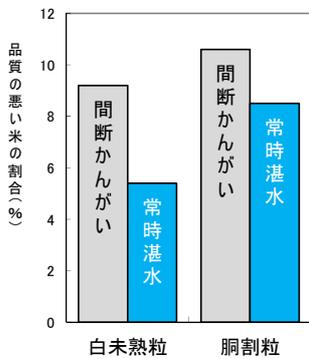


図1 出穂前後の水管理と白未熟粒、胴割粒との関係
(滋賀農技セ 2006年「コシカリ」)

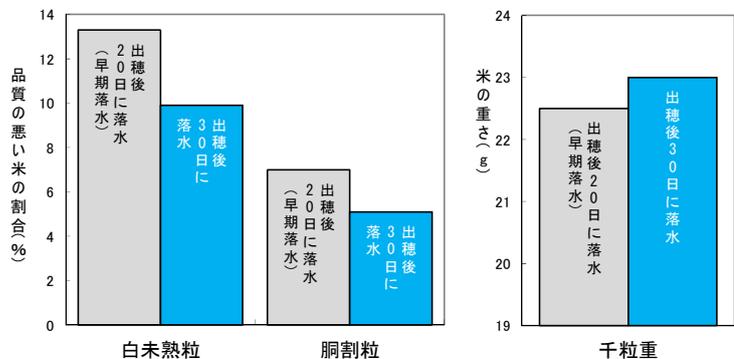


図2 落水時期と白未熟粒、胴割粒、千粒重(米の重さ)の関係
(滋賀農試湖北分場2004年「コシカリ」)

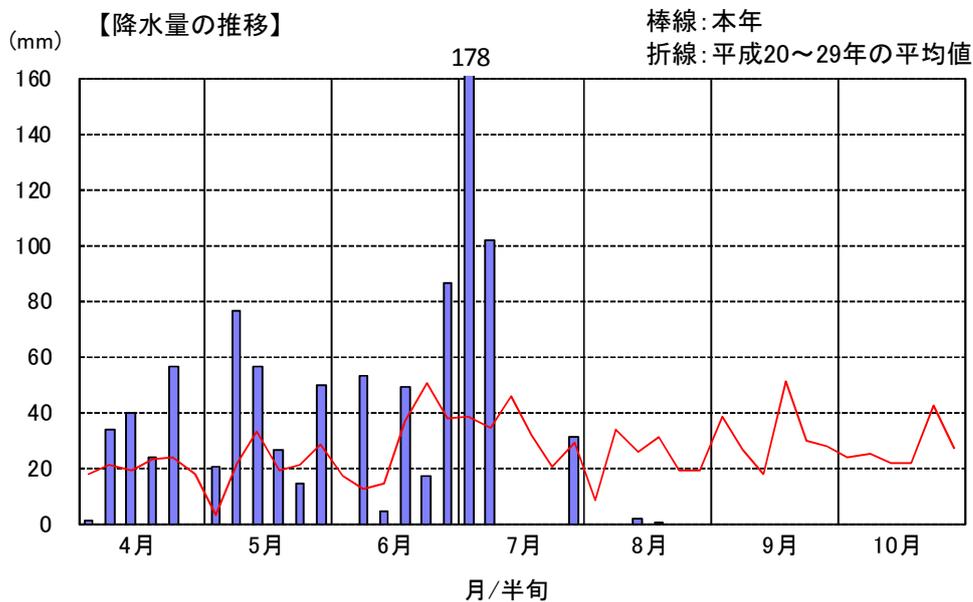
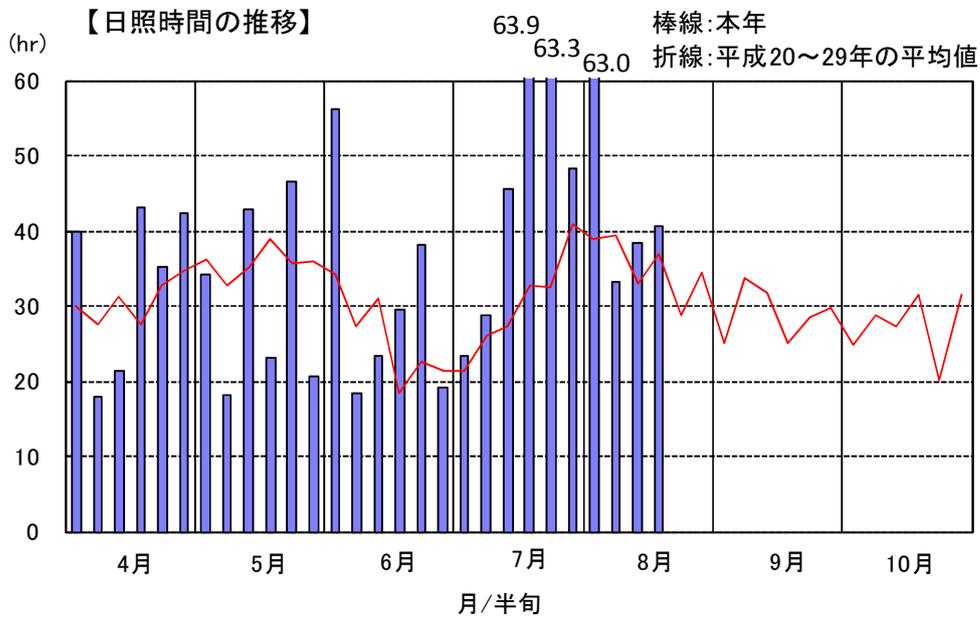
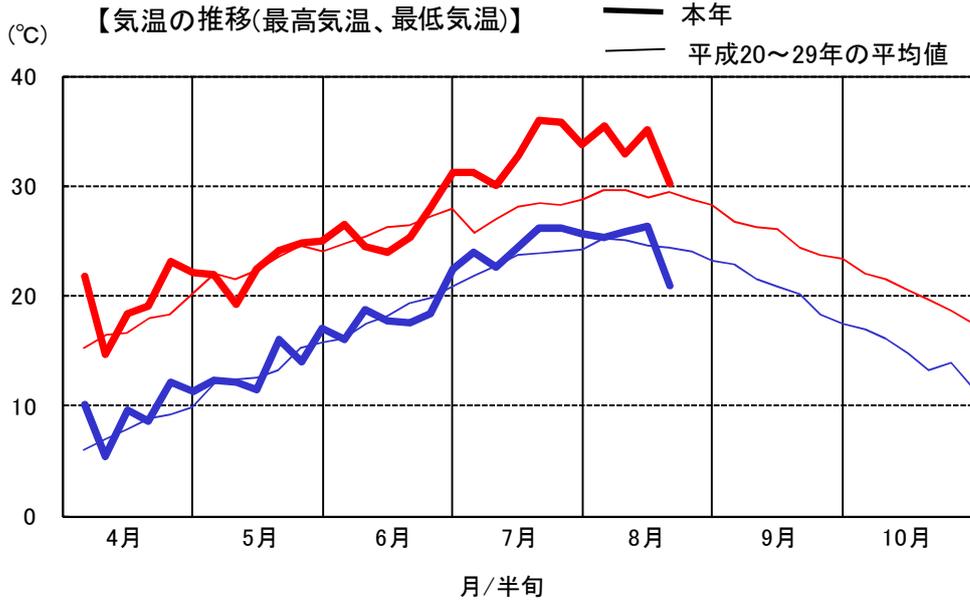
出穂前後の常時湛水で
白未熟粒、胴割粒が減ります

収穫直前まで入水すると、白未熟粒、
胴割粒が減り、収量も増加します

【参考サイト】

農業技術振興センター	http://www.pref.shiga.lg.jp/g/nogyo/
農技C (Facebook)	https://www.facebook.com/254582198473200
病虫害防除所	http://www.pref.shiga.lg.jp/g/byogaichu/
彦根地方气象台	http://www.jma-net.go.jp/hikone/
異常天候早期警戒情報	http://www.jma.go.jp/jp/soukei/

平成30年(2018年) 水稲作期間半旬別気象図(彦根気象台観測)

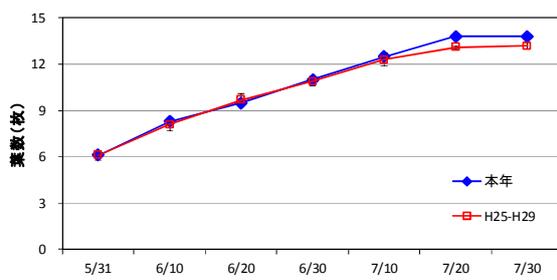
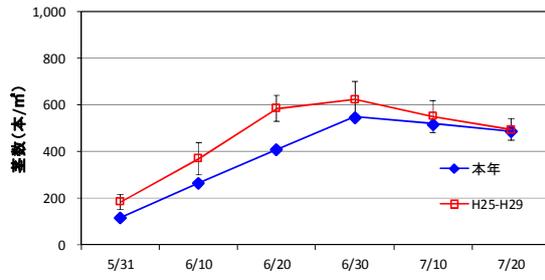
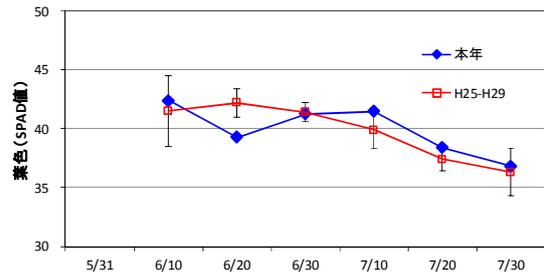
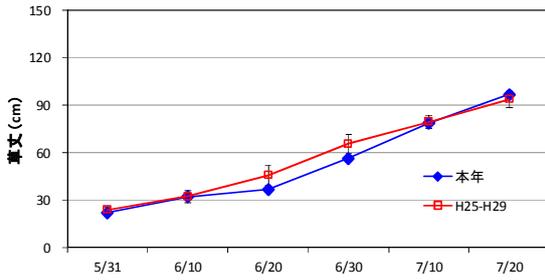


注) 平年は平成20~29年の平均値。 5月,7月,8月,10月の第6半旬の降水量および日照時間は6日間の合計値。

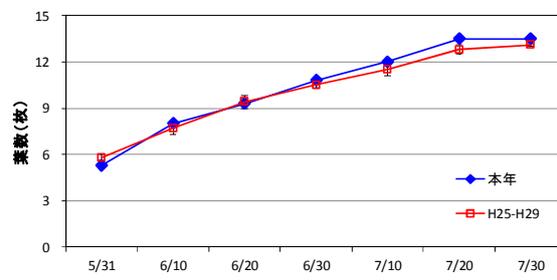
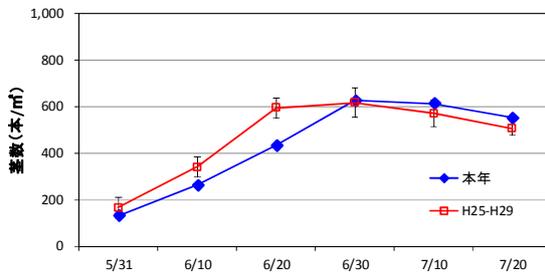
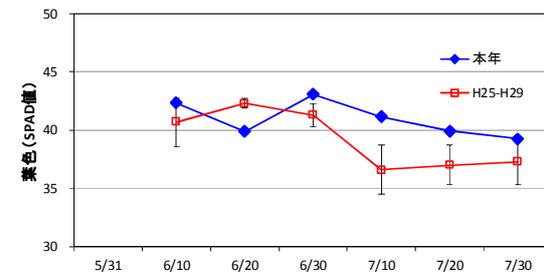
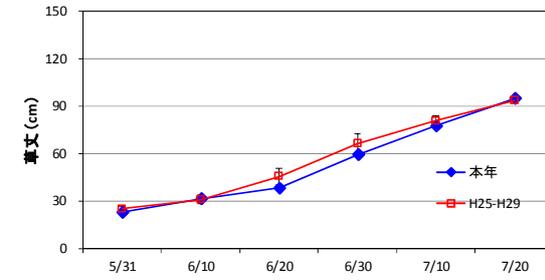
平成30年(2018年) 水稻作況調査 生育調査結果

農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

【みずかがみ】 播種: 4月20日、移植: 5月10日、栽植密度: 18.5株/㎡、植付本数: 3本/株



【コシヒカリ】 播種: 4月20日、移植: 5月10日、栽植密度: 18.5株/㎡、植付本数: 3本/株



【秋の詩】 播種: 4月20日、移植: 5月10日、栽植密度: 22.2株/㎡、植付本数: 4本/株

